



第5章

フィッティング

補聴器は、使用する人の生活の質を改善することに寄与するものでなければなりません。そのため補聴器のフィッティングは、ただ単に聴覚データに合わせて調整するだけの作業ではなく、難聴者それぞれの聞こえの個性や生活環境に合わせ聴覚補助を行う必要があります。その技量を持った補聴器販売従事者として、テクノイド協会に認定されているのが「認定補聴器技能者」です。

確かな技能で対応できる認定補聴器技能者

どんな高価な補聴器でも、その人の耳の形や聴力に合っていないければ、本来の性能を発揮することができません。厳しい条件をクリアした認定補聴器技能者は、補聴器の専門知識や技能を持ち、豊富な経験を生かして、さまざまな状況でサポートをいたします。聞こえの相談から補聴器の提案、調整、きめ細やかなアフターケアまで、確かな技能で責任を持って対応。また、耳鼻科医とも連携しながら、適切なアドバイスをしていきます。



認定補聴器技能者とは…

認定補聴器技能者は、聞こえの不自由な方へのバックアップをいたします。

- 補聴器を一人ひとりの状態に合わせて調整、より快適な「聞こえ」を追求(フィッティング)
- テレビ、電話、会話が聞きづらいときのご相談
- 「聞こえ」や補聴器のご購入のご相談
- 公的支援のアドバイス
- 補聴器相談医と連携した対応

認定補聴器技能者



認定補聴器技能者は、このカードを持っています。

そして、認定補聴器技能者の団体である技能者協会は、認定補聴器技能者に対する補聴器販売時のフィッティングの指針として『販売時における補聴器フィッティング』を制定しています。さらに、販売店協会とともに『補聴器適正販売ガイドライン』を制定し、適正に補聴器を供給するために補聴器販売店で行われる補聴器フィッティングの具体的な手順について示しています。

1. 難聴者へのアプローチ

難聴者の多くは「補聴器を装用すれば、すぐに元の様な聞こえに戻る」という期待を抱き補聴器販売店へ来店されます。しかし、補聴器は聴覚を元に戻すものではなく、適切に調整された補聴器であっても満足いただける聞こえになるとは限りません。そのため、補聴器の有効性と限界について十分な説明を行い、装用を希望される難聴者に理解していただくことが重要です。補聴器の有効性を誇張したり、過大な期待感を抱かせたりするような説明は厳に慎み、適切なアプローチに努めましょう。

また、高齢難聴者は難聴を自覚していないケースや受容しない傾向が強く、同居の家族や周囲の友人に難聴を指摘されても不便とは感じず、補聴器装用をためらう傾向があります。そのため、本人の意志を尊重しつつ、同伴家族の協力を得ながら、根気よく補聴器の有効性について説明する必要があります。



2. フィッティングの手順

【補聴器適正販売ガイドライン】参照

1 医師との連携

初めて補聴器装用を希望されるお客様には、耳鼻科医(補聴器相談医)の診断を受けるよう促しましょう。

お客様が耳鼻科医からの「補聴器適正に関する診療情報提供書」(または紹介状)を持参した場合は、その内容の確認と指示に従ってください。



2 事前のコンサルティング

適切な補聴器フィッティングには事前にできるだけ多くの情報収集が必要です。どのような不自由があり補聴器装用を希望されたのか、どのような場面で不自由を感じるのか、その度合いや程度はどれくらいなのかなど、多くの情報が適切なフィッティングにつながります。そのため、お客様との円滑なコミュニケーションの中から

お客様ご自身で主訴について語られる環境をつくり、気軽な雰囲気の中から情報を取得することが大切です。



お客様からの聞こえの情報例

- 家族の会話の中で聞き返すことが増えた。
- 習い事の先生の話が聞き取れなくなった。
- 後ろから呼ばれても気づかないことがあった。
- テレビの音量がうるさいと言われた。
- 会議で聞き取れないことがあった。

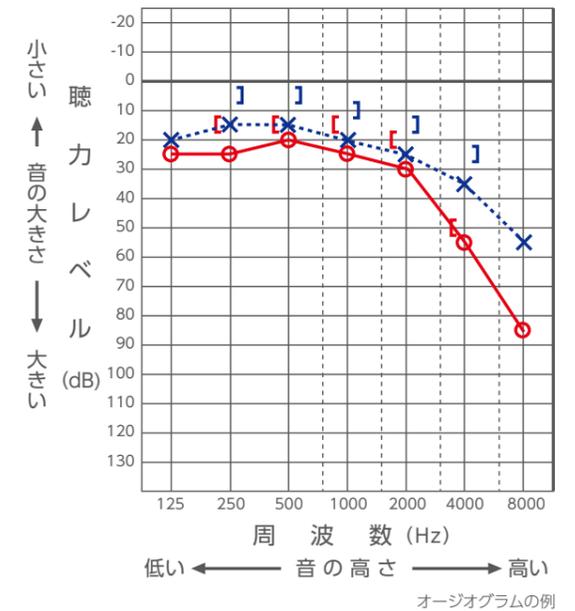
3 聞こえの測定

補聴器適合のための基本情報として聴力測定を行います。

耳鼻科医からの「補聴器適正に関する診療情報提供書」があれば店頭での聴力測定は不要ですが、不足している情報がある場合はフィッティングの基礎となるデータ収集を行う必要があります。



オーディオメータの例



言葉の聞き取りの測定

ことばの聞こえ方検査用紙(語音弁別検査)

氏名	鈴木太郎	年齢	65歳	検査側	右耳	語音弁別率	75dBにて60%
聞こえの補聴器に書いて下さい							
第1表	呈示レベル	90dB	マスケンク	50dB	語音明瞭度	55%	
	あ	き	し	ぬ	た	に	よ
	じ	う	く	く	く	く	く
第2表	呈示レベル	75dB	マスケンク	35dB	語音明瞭度	60%	
	あ	い	し	り	あ	は	お
	な	も	わ	く	と	あ	が
第3表	呈示レベル	60dB	マスケンク	20dB	語音明瞭度	25%	
	き	あ	た	よ	い	う	く
	す	は	ば	て	あ	わ	が
	あ	い	し	に	じ	く	わ
	り	お	な	も	と		
	に	な	ぞ	と	よ	く	じ
	わ	ら	ば	を	こ	と	わ
	ら	も					

補聴器を調節するために必要なデータを取ります。特に、言葉の聞き取りの測定は重要です。(補聴器を使用する前の言葉の聞き取りを調べます)



測定は防音室などの狭い空間で行う場合が多いため、お客様に不安を与えないように、その内容と目的、所要時間などをしっかり説明しなければなりません。測定にはオーディオメータを使用し、フィッティングにおいて最低必要な聴覚データ(気導聴力レベル、骨導聴力レベル、語音明瞭度)を測定します。気導聴力レベルと骨導聴力レベルは補聴器の利得出力の選定のため、語音明瞭度は補聴器の効果を予測するためのデータとなります。

気導聴力レベルと骨導聴力レベルの測定結果はオーディオグラムに、語音明瞭度はスピーチオーディオグラムに示します。なお、測定結果をもとに「お客様は軽度難聴です」など医学的判断や説明を加えることは、厳に慎まなければなりません。

4 補聴器の選択

難聴の程度だけで、お客様に合った補聴器を選択することはできません。コンサルティングで得た情報や聴覚データから搭載機能や操作性をもとにいくつかの補聴器を候補にあげ、それぞれの機種を試聴を行い、お客様の評価を踏まえて選定します。

補聴器のタイプ



お客様の希望する使用環境や体質（汗をかきやすいなど）に応じて、防水性能の高い機種を選択したり、手先の器用さに応じて電池の交換やボリューム操作などの簡易さを考慮します。ご自身では操作や管理が困難な場合、ご家族の協力がどの程度得られるかも補聴器選択の判断材料になります。

また、難聴の程度に適した利得・出力の機種を選択します。ただし、今後聴力レベルが変化する可能性もあるので、若干の余裕を見ておく必要があります。そのため、取り扱いのある補聴器機種の性能はカタログなどで把握しておく必要があります。なお、補聴器性能の数値はJIS規格による測定値で掲載されています。

あなたの聞こえに合った補聴器を選びましょう

カタログ表示の例1

聞こえの程度(実際の声に例えた聞こえの状態)

聴力レベル (dBHL)	軽度		中等度		高度		重度	
	軽度難聴	中等度難聴	高度難聴	重度難聴	軽度難聴	中等度難聴	高度難聴	重度難聴
25 30 40	30 40 50	50 60 70	70 80 90	90 100				
アイタイプ	防水							
デジタル								
複製耳かけ型	デジタル							
防水								
耳かけ型	デジタル							
ポケット型	デジタル							
アナログ								
音響メガネ型	デジタル							
アナログ								

軽度難聴……小さな声の会話を聞きとれなかったり、聞き間違えたりする。
 中等度難聴……普通の大きさの声の会話を聞きとれなかったり、聞き間違えたりする。
 高度難聴……大きな声の会話でも聞き取りにくい。
 重度難聴……かなり大きな声でも聞き取りにくい。

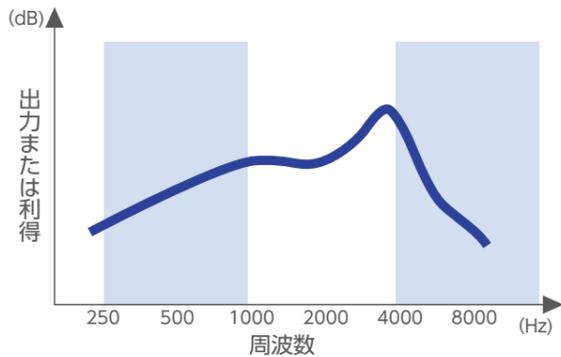
カタログ表示の例2

型式	耳かけ型				
	****	****	****	****	
希望小売価格(円)(片耳・1台)	158,000	118,000	198,000	158,000	
最大音響利得 (dB)	HFA[±5dB]	70	70	70	70
	ピーク値(+3dB以下)	79	79	80	80
90dB入力最大出力音圧レベル (dB)	HFA[±4dB]	130	130	131	131
	ピーク値(+3dB以下)	138	138	140	140
標準フック	EH-P2	EH-P2	EH-B2	EH-B2	
誘導コイル入力の最大感知レベル (dB) [±6dB]	100	100	103	103	

5 補聴器の調整

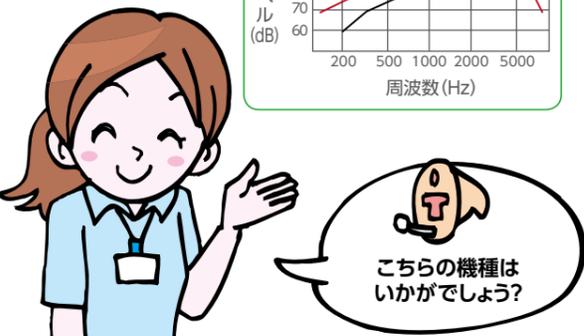
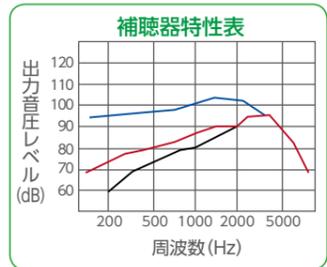
お客様の聴力に合わせて補聴器の特性を調整することは音作りの作業です。補聴器の機種により異なりますが、多くは補聴器メーカーが提供している補聴器フィッティングソフトで調整を行います。

補聴器フィッティングソフトには補聴器特性が表示されており、一般的には横軸が周波数(音の高さ・Hz)、縦軸が音の大きさ(出力または利得・dB)です。多くの



補聴器特性の横軸・縦軸

補聴器は、いくつかの周波数帯ごとに利得・出力のレベルを設定できるようになっており、聴力やお客様の反応に応じて増減調整を行います。補聴器の機能により調整内容は異なりますが、基本的には周波数ごとに小さな音は快適に聞こえ、大きな音はうるさくなく出力音を調整します。



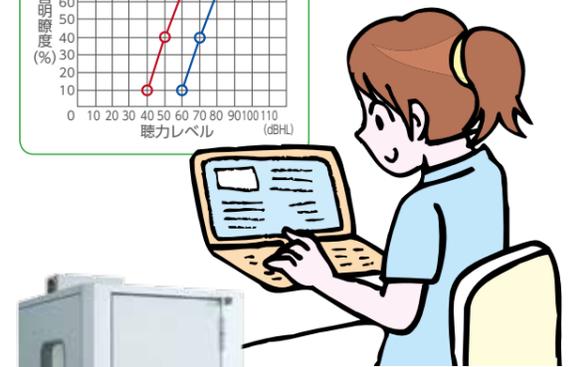
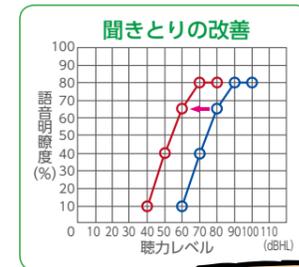
利得・出力以外にも、騒音抑制機能やメモリー機能、ワイヤレス機能など、補聴器に搭載されている多くの機能を十分に活用し、お客様のQOL向上を目指さなければなりません。それぞれの機能の必要性や設定は、補聴器の使用環境や聞こえの状態、不便さによって判断されます。そのため、事前のコンサルティングや聞こえの測定結果、試聴結果など、あらゆる作業の中で得た情報を活かします。

6 補聴器の効果測定

補聴器は装着効果の確認ができて初めて価値のあるものとなります。補聴効果の確認は、お客様の持っている聞こえの力を補聴器で十分に引き出せているかを確認することであるとともに、販売に問題がなかったことを証明するためにも必要です。また、お客様も具体的に装着効果を示されると安心して装着することができます。

測定方法は、技能者協会が制定した「販売店における補聴効果の確認法」に記述されています。これは、日本聴覚医学会が制定した「補聴器適合検査の指針(2010)」を参考に、認定補聴器技能者の立場を理解したうえで、補聴器販売店が行うべき補聴効果の確認法についてまとめたものです。

補聴効果の測定方法には「主観的評価法」と「客観的評価法」があり、お客様の感覚による評価と聞こえの測定結果による評価の両方を行う必要があります。なお、客観的評価法はスピーカから音を出すため測定環境を整えなくてはなりません。



防音室の例

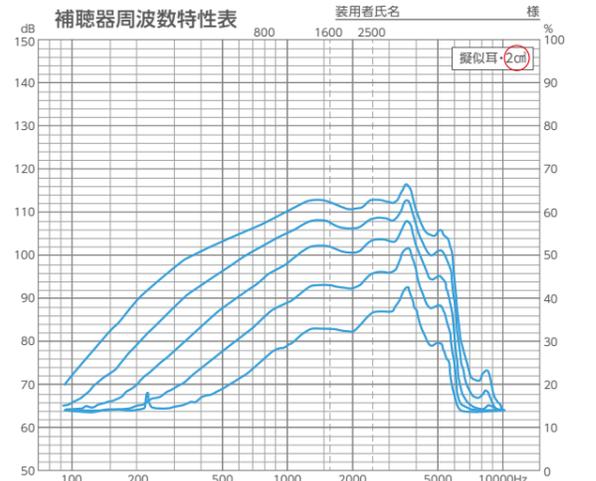
補聴効果測定装置の例

7 補聴器の特性測定

フィッティングした補聴器の動作を確認するためには、補聴器特性測定装置を使用し特性測定を行います。測定装置では各周波数の音が補聴器のマイクロホンに入力され、補聴器が出力した音圧レベルがデータとして記録されます。これを補聴器の周波数特性といい、そこから、その補聴器がお客様の聴力に対し適切かどうかを判断します。日常生活では様々な大きさの音が補聴器に入力されることから、測定の入力音圧は50dB～90dBまで10dB刻みで行うようにしましょう。なお、周波数特性は補聴器の故障判断にも利用するため、特性測定は必ず行いその記録を保管してください。



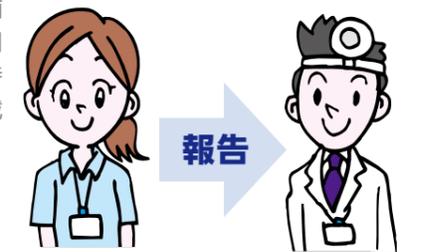
補聴器特性測定装置の例



測定された補聴器周波数特性の例

8 医師への報告

お客様の補聴器フィッティングについては「補聴器適合に関する診療情報提供書」をいただいた耳鼻科医へ報告する必要があります。報告書は日本耳鼻咽喉科学会が提供する「補聴器適合に関する報告書」を使用し、装着耳や補聴器機種、装着状況、補聴器特性などを記載してください。



報告

9 補聴器装用のケア

補聴器の脱着や操作は難しい作業ではありませんが、初めて補聴器を装用する人や高齢者にとっては慣れるまで練習が必要な場合があります。これらができるようにならないと、日常的に補聴器を装用することができないため、お客様の器用さや理解度に合わせて丁寧に説明し一緒に練習することが求められます。身体状況によって一人でやるのが難しい場合は、ご家族の方も一緒に習得していただく必要があります。ご家族が補聴器装用をフォローできるようにしておくことは補聴器の継続使用の力強い味方となります。

また、補聴器装用は段階的に進めた方が慣れやすいこともあります。短い時間から少しずつ装用時間を増やしていくようにする、静かな環境で使用し慣れてきたら今度はにぎやかな環境にチャレンジするなど、お客様の状況に応じてアドバイスすることも大切です。

以下の質問項目により、お客様の聞き取りの改善を確認してください。

【質問項目】

- 静かな所で、家族や友人と1対1で向かいあって会話する時、聞き取れる
- 家の外のあまりうるさくないところで会話する時、聞き取れる
- 買い物やレストランで店の人と話す時、聞き取れる
- うしろから近づいてくる車の音が、聞こえる
- 電子レンジの「チン」という音など、小さな電子音が聞こえる
- うしろから呼びかけられた時、聞こえる
- 人ごみの中での会話聞き取れる
- 4, 5人の集まりで、話が聞き取れる
- 小声で話された時、聞き取れる
- テレビのドラマを、周りの人々にちょうどよい大きさで聞いている時、聞き取れる

一般社団法人日本聴覚医学会：補聴器適合検査の指針
2010: Audiology Japan 53 No.6 2010より

また、補聴器に使用する電池はサイズが小さく、一般電気機器に比べ寿命も短いです。電池の特徴、交換方法や電池切れの確認方法なども理解、習得していただくほ

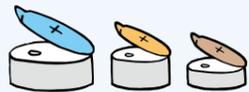
項目	記録事項	注意点
① 個人情報	・氏名、性別、生年月日、住所、電話番号など ・職業(歴)・家族構成(家族と同居/独居) ・生活(住)環境、職場環境(環境騒音の有無) ・「補聴器適合に関する診療情報提供書」の有無	お客様からいただいた個人情報は、販売店が規定している個人情報の保護に関するご規定に沿って慎重に扱う。またお客様にその説明を行う。
② 主訴	・いつごろから難聴を自覚したか・どんな状況下で不自由を感じるのか ・補聴器試聴希望のきっかけ・補聴器使用の目的・場面 ・補聴器使用での改善目標・補聴器の形状などご本人の希望	補聴器の選択や調整に必要な情報であり、補聴器装用への対処法を導く大きな要素となるため、できるだけ詳しく記録する。
③ 耳の状況	・耳鼻科の治療歴及び手術歴・外耳道の観察状況 ・耳鳴の有無(どちらの耳か、どんな音か)・耳漏の有無 ・アレルギーの有無・難聴の原因、履歴	販売員自身で外耳道を観察し、的確な質問でお客様の耳の状況の状況を入力する。耳鼻科医からの情報がある場合はそれを記録する。
④ 聴覚データ	・気導聴力レベル、骨導聴力レベル・語音明瞭度 ・その他耳鼻科医から得た聴覚情報	
⑤ フィッティングデータ	・装用耳の決定過程、両耳での試聴結果・試聴機種と反応 ・選択した補聴器、選択に至った理由・補聴器効果測定結果	装用耳の決定は、その根拠を示す。装用耳や機種種の決定事項が耳鼻科医の指示と異なる場合は、その理由を記録する。
⑥ 販売した補聴器の記録	・機種情報(機種名、製造番号など)・アフターケアの実施内容や計画 ・取扱説明書や添付文書の説明の実施有無・補聴器調整内容	同伴者の方にも操作方法の説明及び適正使用情報の伝達を行い、記録に残す。
⑦ 苦情などへの対応と記録	・苦情内容と原因、経緯 ・対応と今後の予定	

か、補聴器の故障を避けるために日常的なお手入れが必要であることも理解していただき、正しいお手入れ方法を伝えます。



空気電池の特徴

- 使用前にシールを剥がす。
- 一旦シールを剥がすと使わなくても消耗する。
- 乾燥や二酸化炭素の影響を受けると寿命が短くなる。



その他、ご本人やご家族が知りたいと思っていること、不安に思っていることについては、できるだけわかりやすく丁寧に説明してください。

補聴器フィッティングは補聴器をお客様の聞こえに合わせる作業だけでなく、お客様が安心して快適に補聴器を装用できるようにすることまで含まれることを理解し、お客様の立場に立った対応が必要です。

3. フィッティング記録の書き方と保存

補聴器フィッティング記録方法の要諦は「よく省(かえり)み」で「よく省(しょう)せ」です。記録漏れ、記録間違いがないかよく確認し、無駄を省いた簡潔な記録が必要です。記録は調整結果だけでなく、主訴や補聴器の調整経緯、アフターフォローの状況なども含みます。また、記録には個人情報が含まれるため、保存、保管は厳重に行う必要があります。参考に販売店協会発行の記録カードを右に示します。

1 記録すべき事項

一般社団法人日本補聴器販売店協会発行の記録カード

お客様フィッティング記録カード No. _____

初来日 年 月 日 (担当 _____)

ふりがな _____ 生年月日 _____ 年齢 _____ 性別 _____
お名前 _____ 年 月 日 _____ 歳 男 女 _____
住所 〒 _____ 身障手帳 なし あり(級) _____ 職業 _____
TEL ① _____ TEL ② _____
e-mail _____ FAX _____

<コンサルティング> ○補聴器を使用したい物種や場面などを聞いて目標を設定します

① どのようなご相談ですか(主訴) _____

② いつ頃から不自由を感じていますか? () 年齢前から 両耳 右耳 左耳

③ 難聴の原因は何ですか? 年齢とともに 中耳炎 突発性 難音 雑音 その他

④ どんな時にお困りですか? 会話 会話 講義 テレビ ラジオ 電話 その他

⑤ 補聴器に期待(希望)することは? _____

⑥ 補聴器の使用経験は? ない ある(年数) 台目 両耳 右耳 左耳

⑦ 当店で知りませんか? 紹介 広告 その他 _____

⑧ お客の動機は? 初めの方 → 自分から 勧められて 家族 医師 知人
使用の方 → 不満 修理不能 予備 買い分け その他

⑨ ご来店はおひとりですか? ひとり 夫 妻 息子 娘 孫 その他

⑩ 同級のご家族はいますか? ひとり 夫 妻 息子 娘 孫 その他

耳鼻科の受診 (紹介状 あり なし) ※初めて購入する場合には事前に補聴器相談の受診を受けることをお勧めします

病歴名 _____ 診断内容 _____
医師名 _____ 特記事項 _____

禁忌 8 項目 ○お客様の安全と安心のため、ご購入の前に確認をします

① 以下の 8 項目のいずれかに該当する場合には必ず耳鼻科医(補聴器相談)の受診をお願いします

耳の手前が赤いことがある 外耳道に痛みまたは、かゆみがある
 最近 3 ヶ月以内に耳が痛くなった 耳が赤いままになっている
 最近 2 ヶ月以内に聴力が低下した 聴力測定の結果、平均聴力の左右差が 25dB 以上ある。
 最近 1 ヶ月以内に聴力が大きく変わった 聴力測定の結果、500、1000、2000Hz の聴力が 20dB 以上の気音増益がある。

その他確認事項

補聴器の公的支援や助成制度についての説明(希望する・希望しない)
 販売店では医療機関で行うような診断や検査および診断は行いません
 心臓の病歴、脳梗塞、血栓症などの治療で薬を内服している場合は、出血しやすくないか、耳の奥の皮膚をこすっても心配ないか
医師に確認が必要です
 補聴器相談の形がなければ耳鳴りの治療を目的とした補聴器の販売はいたしません
 販売店では認知症の診断や治療はできません
 販売店では耳の手前が赤いことがある方の耳型採型はできません

個人情報取扱いに関する説明とご了承 特約法に基づくクーリング・オフ等の説明とご了承
 DM の送付(可・不可)

聴力測定データ貼付

<きこえの測定>

聴力測定(気導・骨導・不快閾値) 年 月 日 担当 _____

オーゾグラム(聴力図)

平均聴力レベル

右	dB	左	dB	分法

マスキングノイズレベル(dB)

右	125	250	500	1000	2000	4000	8000
気							
骨							
骨							
骨							
骨							

マスティングレベルを記入、実施していない場合は「未記入」
※気音測定時は気導マスキングノイズを本人から聴かせ、耳に記入

気音 = ○ 骨音 = □ 不快閾値 = △
右耳 = ○ 左耳 = □ 右 UCL = A 左 = V
気音 = × 骨音 = △ 右 UCL = V 左 = △

語音弁別測定(受話器) 年 月 日 担当 _____

スピーチオーディオグラム(語音聴力図)

正常語音了解閾値

語音了解閾値(SRT)

右	dB	左	dB

語音弁別スコア

右	%	左	%

凡例
数字記録 左耳 = ○
筆跡記録 右耳 = □

<補聴器の選択>

試聴
期間: _____ 機種・装用耳等: _____

使用耳
右 左 両耳 医師の指示 試聴結果 本人希望 家族希望 その他

選択した補聴器
メーカー: _____ 機種: _____ 機種選定理由: _____
耳あな 耳かけ ポケット 価格: _____
最大出力: _____ dB SPL 最大音響利得: _____ dB

周波数特性表 (50 または 60、70、80、90 dB) 貼付

<補聴器の調整>

主訴 _____ 処置 _____

会話の聞き取り 使用機種 ボリューム 雑音抑制 指向性 ノイズリダクション
 両耳のバランス オープンイヤタイプ T コイル Bluetooth FM リモコン

難音 難音・雑音 カナル・CIC・その他
自声のこもり・むひき ハード・ソフト / ベント(平行・段 φ) / ダンパー()
耳せんのフィット感 ノーマル・スリム() / RIC()

プログラム数: ① _____ ② _____
③ _____ ④ _____
その他 _____

<効果の確認>

語音弁別測定(音場) 年 月 日 担当 _____

スピーチオーディオグラム(語音聴力図)

正常語音了解閾値

語音了解閾値(SRT)

右	dB	左	dB

語音弁別スコア

右	%	左	%

凡例
数字記録 記号を記入
筆跡記録 右耳 = ○
左耳 = □ 両耳 = △

補聴器効果測定 年 月 日 担当 _____

補聴器装用期間(音場)

0	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100

非測定耳の選定方法 _____

測定単位 聴力レベル / 音圧レベル

記号を記入
右耳 = _____ 左耳 = _____
両耳 = _____

取扱い等の説明

操作(装着・スイッチ・ボリューム・その他) 電池(種類・交換・寿命・入手)
 ハウリング・イヤモデル・水対策 アフターケア・メンテナンス
 保障・保険・付属品

初回フィッティングの評価 年 月 日 / 担当 _____ / 確認 _____

主訴 本人 _____
客観 家族 _____
総合 (対面で日常会話の理解度 %、主訴の改善状況、今後の目標・方針など)

フィッティング(2回目) 年 月 日 担当 _____ / 確認 _____

主訴 _____
客観 _____
総合 _____

フィッティング(3回目) 年 月 日 担当 _____ / 確認 _____

主訴 _____
客観 _____
総合 _____

購入履歴

年月日	メーカー	機種	製造番号	カラー	電池	装用耳	価格	担当	備考

一般社団法人日本補聴器販売店協会
〒110-0047 東京都千代田区千代田 1-1-1 協会ビル
TEL: 03-5268-5904 FAX: 03-5268-9020

2 記録保存の重要性

補聴器フィッティングの記録を保存することは、次のようなことに役立ちます。

- ① お客様が再度来店された際、その記録をもとにフィッティングが受けられるという安心感と、自分のことをよく知っていてくれるという信頼感を提供できる。また、迅速な対応が可能になる。
- ② 医療機関との連携において、店舗の信頼性、販売員の信頼性を示すものとなる。
- ③ お客様やご家族からの問い合わせや苦情などに対し、フィッティング結果を示し説明することができる。

4.衛生管理について

補聴器は使用者が常時身に着けて利用する医療機器であることから、その取り扱いには衛生的かつ安全が確認できるものでなければなりません。また、聴力測定時に使用するヘッドホンや耳型採取時の器具などは、お客様に直接触れるものですので、それらの衛生管理も重要です。

補聴器販売を行う店舗は常に清潔な環境を保ち、器具の殺菌消毒箱や消毒剤、手指洗浄のため液体石鹸や手洗設備を用意します。衛生的な収納箱の設置や消毒済みと未消毒品を分別管理するための設備なども求められます。



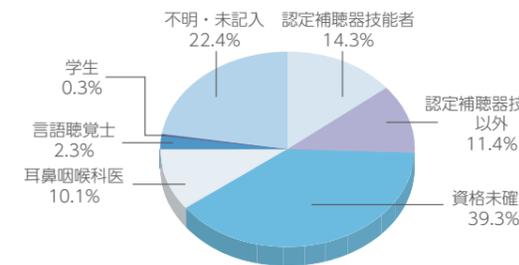
5.補聴器フィッティングにおける安全性について

補聴器フィッティングにともなう作業の中で最も危険が伴うのは、イヤモールドやオーダーメイド補聴器を製作する際の耳型採取です。



日本耳鼻咽喉科学会が発表した「補聴器の耳型採型における副損傷」(日耳鼻118:1058-1067,2015 杉内智子他)によると、過去10年間に460例の副損傷例(印象剤の離脱困難・残留など)が確認されており、その発生場所は補聴器販売店が最も多い342例であったことが示されています。約10日に1回の割合で耳型採取による事故が発生していることから、厳重な注意が必要です。

耳内異物例と鼓膜穿孔例の耳型採型担当者



「補聴器の耳型採型における副損傷(日耳鼻118:1058-1067,2015杉内智子他)」図3から引用作図

耳型採取を行う際は、外耳道内をしっかりと確認し、慎重に取り組まなければなりません。

6.周辺機器について

補聴器は難聴による不便さを軽減し、難聴者のQOLを向上できる機器ではありますが、それだけで解決できないこともあります。難聴者にとって必要な日常生活の音情報が、補聴器のみで補いきれないと判断された場合には、その他の機器の併用を提案することも重要です。

以下に、音情報の保障に有効な様々な周辺機器を紹介します。

1 補聴器の機能を補うもの

- ・ワイヤレス機能・無線アダプター
- ・磁気ループシステム
- ・赤外線利用システム

無線アダプターの例



2 特定の音のみを聴取するもの

- ・テレビ聴取用拡声器・無線機
- ・電話用拡声器



3 聴覚以外の感覚を利用するもの

- ・音を振動感覚に変換して伝えるもの



7.アフターケアの必要性

補聴器による聞こえの評価は、装着経験や装着場面によって変化が生じることがあります。お客様が補聴器装着開始時に気づかなかったことや聞こえの感じ方の変化などに対し、再調整などのアフターケアが必要です。そのためにも、お客様には補聴器購入後も定期的に来店してもらい、補聴器の使用状況を確認し、上手く使いこなせていない場合は再調整や装着指導を行わなくてはなりません。



また、補聴器は身に着けて使用するため、汗、耳垢、湿気などが故障の原因となり得ます。日頃の正しいお手入れ方法を説明するとともに、定期点検の重要性もお伝えします。また、お客様が高齢者の場合は日常生活をよく知るご家族とともにご来店いただくなど、状況に応じたアフターケアも重要なことです。

8.ご家族や周囲の方へのお願い

日常生活の中で補聴器の効果を十分に発揮してもらうためには、家族や周囲の配慮や応援が重要であり、また聞きやすい音環境の整備も大切です。それらについては、同行されたご家族に説明し理解していただく必要があります。

1 補聴器になれるまでの配慮

補聴器の聞こえ方や操作に慣れるまでに多少時間を要する場合があります。装着を強要しないようお願いしてください。加えて、補聴器への装着意欲が高まるよう会話の楽しさを実感できるような配慮も必要です。

2 話し方の配慮

話し手の話し方によって、難聴者の会話の理解は大きく影響されます。補聴器の装着によって大きな声で話す必要はなくなりますが、以下のような理解しやすい話し方に配慮する必要があります。

- ① 会話の前に少し注意を促す
- ② 相手に近づき正面から話す
- ③ 話し方は、ゆっくり、はっきり、言葉を区切って(句読点を目安に間を置いて)話す
- ④ 声は普通の大きさで(大きな声は逆効果で内容の聞き取りが低下する)話す
- ⑤ 話題を急に変えない
- ⑥ 会話の内容が理解されているか確認しながら話す



3 補聴器を使用する場所の音環境の整備

聞きたい音以外に周囲に邪魔する音があると、聞き取りが難しくなり疲労感も増してしまいます。そのため、テレビを消す、窓を閉めるなど、会話をする際にはできるだけ環境音を減らしてもらうよう注意を促して下さい。